

越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2011年

No. 9

菅笠ポスター完成

越中福岡の菅笠製作技術保存会として、初めてポスターを作成しました。縦約一メートル横七十センチのサイズで五百枚印刷しました。このポスターを、県内外の観光施設のほか、北陸三県、飛騨、高山など交流のある自治体に配布し、菅笠を広くPRしたいと思います。



今年のスゲ状況

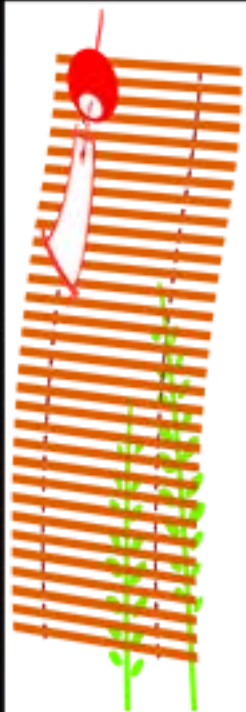
今年の雪解けは遅く、追い打ちをかけるように五月には、突風が吹き荒れました。そして、七月の刈取時期には、曇り空が続き、小雨が降ったりと農家泣かせの日々が続きました。

そのせいか、今年のスゲの収穫は、例年より二割減との声もあります。

自然相手のものですから、なかなか思うようにはいきませんが、PRも年々拡大し、関係者の思いは、良質・多収穫に期待をしています。天候に左右されながらも、福岡ならではの風景「スゲ干し」が、あちらこちらで見られました。



菅笠展示



七月二十三日から、十日間、南砺市上梨の越中・飛騨観光園五箇山観光案内所で、高岡市の特産品やイベント、観光名所などの紹介を行いました。

菅笠（市女笠・花笠・一文字笠）の展示も行い、細かい手仕事を見ていただく良い機会となりました。



※ 「耕稼春秋」にはスゲ作りについて、

「総じてスゲ作るは、稲より取目多く有といへども、糞多く入、其上、土用の内、刈干入第一にするに依って多くは作りがたき物なり」

とあり、水稲よりも有利であるが、肥料が多く必要であり、刈る時期・干す時期が土用の晴れた日という限られた期間であり、広い干場が必要であるため多くの労働力がかかること記しています。

平成の現在でも、福岡のスゲは、昔と変わらない製法で、作られています。

※江戸時代加賀地方の農業書
加賀地方の農業・農具について記述
土屋又三郎著 一七〇七年成立



新理事紹介

五月三十日、越中福岡の菅笠製作技術保存会総会にて、新理事として、農事組合法人鳥倉農産理事中島明さんが就任され、今後も、保存会活動にお力添えをいただくことになりました。
何卒、よろしくお願いいたします。

ミニ菅笠作り体験

昨年同様、二上まなび交流館で、「まなびっこフェスティバル」が開催されます。今年も、越中福岡の菅笠製作技術保存会は、ミニ菅笠作り体験で、参加します。

とき 十月八日(土) 十時〜

ところ 二上まなび交流館

〒高岡市二上二〇〇一
TEL 二一〇〇〇一

編集後記

平成二十二年度の総会も無事終了し、保存会も三年目へと更新しております。

スゲ栽培農家及び笠縫技術者へのメディア取材に同行する場合もある中、「越中福岡の菅笠」の周知が、日々拡大し、たくさんの人々の関心を寄せていることが、日々実感するようになってきました。

保存会は、越中福岡の特産物「菅笠」が、重要無形民俗文化財に指定されたことを誇りに思い、この伝統的技術の保存普及と後継者を探し求めております。

皆様のまわりに興味をお持ちの方がおられましたら、菅笠保存会事務局までご一報いただければ、ありがたいです。

TEL 六四一五三三三

